統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
就業動向指標第一係長

安武 誠
Yasutake Makoto

平成22年４月 総務省採用
統計局統計情報システム課
最適化調整係
平成23年４月 統計局統計情報システム課調整係
平成24年１月 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室企画指導第二係
平成26年７月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係
平成29年４月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係長
平成31年４月 現職

継続する力－過去に学ぶ今の姿－

今の日本の雇用状況

新型コロナウイルス感染症が日本の雇用にどのような影響を及ぼしたのかご存じでしょうか。総務省では、日本の雇用状況を明らかにするために「労働力調査」を毎月実施し、私はこの労働力調査の公表業務に携わっております。

労働力調査では「完全失業率」などニュースで馴染みのある数値を扱っております。公表日には、記者の方々などから問い合わせがあり、すぐにwebニュースなどで掲載されます。

ここで印象に残っている問い合わせの回答を紹介したいと思います。「2020年4月の結果から、休業者数は597万人と1年前に比べ420万人増加しました。これは、比較可能な1967年12月以降で過去最多、増加幅も過去最大となります。」この内容は、新型コロナウイルス感染症による雇用への影響が、数値として現れた結果の1つだと考えております。日本の雇用状況を正確に伝えることが、今の私の仕事です。

未来へのメッセージ

2020年4月に緊急事態宣言が発令されました。普段、政治や社会状況について情報収集の割合が低い方もこの変化を知ろうとされたのではないでしょうか。

労働力調査の結果にも様々な変化がございました。この変化は最終的に、今後の日本の筋道を決めるための重要な根拠になります。担当者全員で、社会背景を考慮しながら関連する統計データを分析し、情報を発信していきます。

統計は、施策を行う部署と比較すると縁の下の力持ちのような役割を担います。その中で、最初に数値という客観的情報を多角的に知れることは魅力です。20年後、30年後、その先も今の数値が比較対象になる時期がやってくる可能性は大いにあります。継続的に統計を作成していくことは未来の方々へのメッセージになると思うとやりがいに感じます。統計の業務に興味をもたれた方、是非、総務省をのぞいてみてください！

Q 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？

A 各府省が作成する統計を一元的に集約した政府統計のポータルサイトであるe-Stat(政府統計の総合窓口)の企画・運営等の業務です。今では多くの統計データが集約されておりますが、私が携わった頃は、統計データも多いとは言えない状況でした。そのため、全府省の担当者を直接訪問し、打ち合わせを重ねる場面も多々ありました。その中では、時間を要する案件もあり、全府省と調整することの大変さを痛感いたしました。今の運用しやすくなった状況をみると、粘り強く業務を遂行し続けて良かったなと感じております。

Q 仕事をする上で心がけていることはなんですか？

A 様々な方への感謝の気持ちを忘れずにいることです。仕事内容は多岐にわたるため、必ずしも自分の得意な内容ばかりではございません。周囲の手助けがあるからこそ、自分が困難だと思う内容の仕事でも達成できると思っております。日々、周りの人への感謝の気持ちを忘れずに仕事に取り組もうと考えております。

PRIVATE TIME

まだ幼い娘と公園によく行きます。一緒にブランコに乗ったり、砂場で山を作ったり、シャボン玉も一緒に眺めたりします。子育ては大変なことも多いですが、特別な時間を過ごしています。